

計画概要

現状と課題

- ・檜山管内では、スケトウダラやホッケ等の回遊魚の漁獲が減少、漁業生産はこの5年で半減し、回遊性魚種に依存しない、養殖業を加えた新たな生産体制づくりが必要
- ・放流河川となっている宮野小川では、近年、相当数サケが遡上するが、産卵親魚の確保にしか使われておらず、漁業資源としての有効活用が課題
- ・漁業者の減少・高齢化が継続しており、若手漁業者の確保・育成

取組内容

■ホタテガイ(2年貝)養殖とサケ定置の複合経営の実証事業

- ①若手漁業者グループがホタテ養殖業と 定置網漁業に新規参画 [せたな町(大成区)] + ②既存の養殖業者による若手漁業者の技術指導と所得向上にむけた規模拡大 [乙部町]

【H30年度補助事業】

- ・事業主体： ひやま漁業協同組合
- ・事業内容： ①ホタテガイ養殖施設200m×6基、カゴ洗浄機、貝洗浄選別機、定置網1ヶ統、網洗浄機、巻上ドラム他
②ホタテガイ養殖施設200m×2基、カゴ洗浄機、貝洗浄機
- ・事業費： 47,629千円 (うち道 22,049千円、せたな町 9,154千円、乙部町 1,871千円、漁協 14,556千円)

期待される効果

(1)ホタテガイ養殖への新規参入

リスクの低い2年貝養殖、購入種苗は当年貝を選択 (他地区では1年育成した越冬貝が多数)、斃死リスクを軽減し、安定した漁業収入を確保 ⇒ 大量斃死の見られない乙部地区漁業者の養殖手法を踏襲

(2)生産規模を拡大し、ホタテガイを海外輸出向けに共同出荷

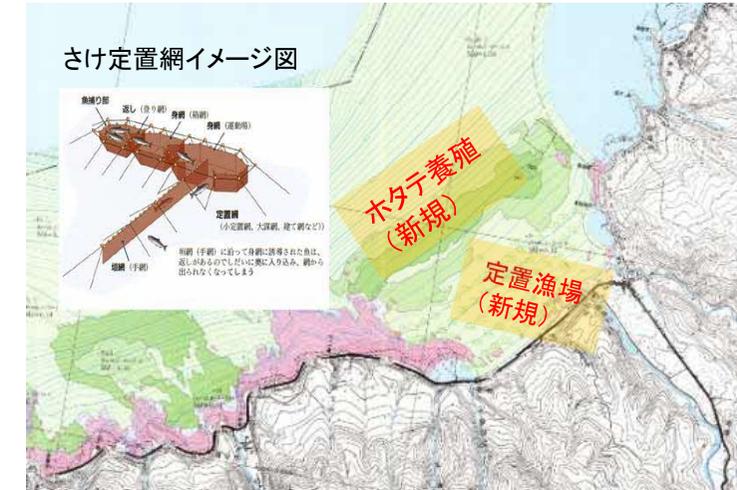
大成地区のホタテガイ養殖への新規参入と、乙部地区での生産規模拡大により、輸出ロットを確保し、近年、ホタテ輸出が好調な韓国輸出向けに共同出荷することで、単価向上、販路拡大

(3)さけ定置網漁業により未利用漁場を有効利用

産卵親魚の確保にしか利用されていない宮野小川の沖合にてさけ定置網漁業に新規着業することで、新たな漁業収入を確保

各漁場について

■せたな町(大成地区)漁場イメージ図



■乙部町(元和漁港沖合)漁場イメージ図

